

	①	②	③	④	⑤	⑥				
項目	身近な人を対象に演奏	病院・施設等にてコンサート コンサートやBGM的演奏を行う	病院や施設などで集団あるいは 個人の患者さんに対しハーブを 用いてセラピー的な関わりをする	音楽療法士になり ハーブを使って セラピーを行う	ハーブ奏者として セラピー的な 演奏活動を行う	ベッドサイドでのハーブ演奏				
内容	ハーブを通してお互いの心が癒 される時間を共有する	病院や施設からなかなか出れな い患者さんに楽しい時間を提供 する	患者さんに演奏を聴いてもらつた りハーブを触ってもらつたり一緒 に演奏したりする	音楽療法士の資格をもちその経験 や知識をもとにハーブを使用した 音楽療法を行う	ハーブ奏者として自身の確立を し、活動内容をセラピーを念頭に 行っていく	ベッドサイドにて死に逝く人に ハーブの音色をもって送り出し ていく				
実現方法	友人や仲間を集めて演奏しあつ たり、聴きあつたりする。	ボランティア演奏を募集している 病院や施設は多い為そこに申し 込めば比較的簡単に実現可能	資格は必ずしも必要ないが、「セ ラピー」を前面に出すなら、最低 限の勉強をして、ボランティアで どこかの病院や施設に入り込み 独自に活動する事は可能。	大学等の音楽療法コースに通うか 実技試験や面接試験などをパス する必要あり	演奏家を名乗るのに資格や試験 は無いので、お客様を集める事 が出来るのであれば実現可能	実際に前例がない為、営業努力 により実現は可能だが、ベッドサ イドに限るのは極めて困難				
実現まで の時間	すぐにも実現可能	ボランティア演奏をしたい人は 多いので、数か月待ちもある。	「ハーブ演奏」と「セラピーにつ いての知識」を習得する時間	専門の学習をし、最低5年以上	自分の得たい収入に比例した 技術を習得する時間	直接人の生命に関わる事になる ので高いレベルの演奏力を習得 する時間が必要				
技術	相手が身近な人であれば、それ ほど高いレベルは求められない	ボランティアであっても途中で、 止まるようなことは良くないので ある程度の演奏技術は必要	静観して聴いている方だけを相手 するわけではないので、(実際の 現場は患者さんに怒鳴られるこ 日常茶飯事)技術はもちろん強 い精神力を必要とする		演奏家として名乗るのに資格や 試験がないので、自分の活動し たいレベルに見合う技術が必要	弱っている方ほど、良くも悪くも 音楽の影響を受けやすく低技術 の演奏を聴かせることにより、 さらに悪化してしま場合も考えら れるので高い技術が必要				
収入	基本的には得られない	基本的にはボランティアなので、 もらえても交通費程度	最初から得るのは困難。効果が 認められれば支払われる事も ある。	音楽療法士の資格があっても必ず 収入がえられるわけではないが、 ある程度、歴史と実績があるので ハーブセラピストよりは収入につな がる可能性は高い	技術力・知名度など演奏家として の力量によって変化する	効果が認められれば報酬を得る 可能性はあるが、現在の日本で は、困難である				
注意点	あまり注意することはない	病院や施設の事情により、演奏 時間や対象者の人数などが決め られている事も多いのでその 条件で自分が演奏可能か確認 する必要がある 要求されている時間を演奏する 事が可能か 場所や人数にあわせた楽器の 運搬が可能か	「人のために役に立ちたい」だけ でなく自分がセラピーをしたい 理由を良く考える必要あり、簡単 な気持ちであれば、壁にぶつか った時に自分がつぶれてしまう 可能性がある	注意点は多いが、音楽療法の勉強 をしていく段階で必然的に学べる	料金を頂き演奏する以上、ある 程度の演奏力が必要とされる	前例がないので「開拓者」として それ相応の努力が必要 病気に對しての専門知識・経験が 浅い場合、様々な病状に対応する (奏法・曲目等)選択が難しい。 病状によっては静かに聴いている 状態だけではなく興奮状態にある 患者さんの前でセラピーを行う技 術や精神力が必要				
効果	健常者相手であっても疲れていま り、うつ病の可能性のある場合な どに予防的な効果が期待できる	病院の外に出られない人にレク リエーションとして楽しんでもら う		専門の知識や経験により患者さん の事を深く理解したセラピーを行な える	障害や病氣を持った人だけでな く、健常者対象でもリラックスで きる演奏でもセラピーとなり、 対象者の範囲が広い	治療？ 看取り？ 癒し？				
考えられる リスク	特になし	演奏する側のセラピーへのこだわ りに対し、依頼側(患者・施設)の 希望しているものとの温度差に 苦しむこともある	ボランティアであっても相手を傷 つけてしまつたり、自分が傷つく 可能性はある		通常の演奏家と目的が違うため 利益の取りづらい(無料・赤字の) 演奏を行う場合もある	弱っている方は、良くも悪くも音 楽による影響を受けやすく、患者 さんの好みの演奏ができるかど うか、技術不足による影響での 病状悪化の可能性 人の生死という重大な場面に直面 した後自身の心のケアが継続して 行っていけるかどうか				
難易度	A	A	B	B	D	C	D	C	D	D